



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2020.10.6

中学校新人体育大会

9月30日、10月1日に四国中央市中学校新人体育大会が開催されました。

卓球部は、女子3名が参加し、個人戦では3名とも一回以上は勝ち、ベスト8に進んだ鈴木さんが県大会出場の権利を得ました。団体戦も、少ないメンバーで善戦していました。一セット目を先行されてからの逆転勝ちも多くあり、3人とも落ち着いて試合に臨んでいたのが印象的でした。

バドミントン部は、男子団体が優勝、女子団体が準優勝でどちらも県大会に出場します。女子団体戦は、新宮中として初めての出場になりました。男子シングルスでは1位菅原さん、2位大西さん、3位大石さん、4位眞鍋さん、女子シングルスは、1位内田さん、2位鈴木さん（2年）と、男女とも上位を独占し、素晴らしい成績でした。ダブルスではベスト4に男子は窪田さん、星川さんペア、女子に鈴木さん（1年）、王さんペアが入りました。ベスト4以上の個人が県大会に出場します。

多くの選手が県大会出場を決めて、大変良い結果でした。7月下旬に行われた市総合体育大会からはたった2か月しかたっていないませんが、技術がとても向上していて、大変驚き、感心しました。今後も、真摯に練習に取り組んで、心技体を向上させていってほしいと思います。

残り5パーセントを大事にしよう

全校朝会で次のようなお話をしました。

これは何の写真かわかりますか。そう、「ピラミッド」ですね。これはエジプトのギザというところにある世界で一番有名なピラミッドです。今から、4500年前に作られたといわれています。聖徳太子は今から1400年ほど前の人ですから、そこからでも3000年前ということになります。平均2.5トンの石が約280万個使われているそうです。表面は傷んで、ギザギザになっていますが、内部の写真を見るとわかるように、隙間なく石が敷き詰められている様子がわかります。角を触ればとがって痛いほどに加工された直方体の石が、隙間なく積みあがっているからこそ、4500年たっても立派に残っているのだと思います。もし、加工が甘くて角に丸みがあるような石が使われていたらどうだったでしょう。たぶん、崩れてしまっていたと思います。体積で言えば、5%にも満たないかもしれませんが、そこをしっかりとやり切るかどうかで結果はとて違ってきます。

このことは、日常生活でも言えるのではないのでしょうか。この写真は掃き掃除をしてゴミが、一か所に集まっている様子です。もしこれを塵取りで取らなければ、他の個所がどんなにきれいでも、見た人は汚れているなど感じて、95%の頑張りがもったいないことになります。塵取りで取ると、次の写真のように取り残しになることがよくありますね。これをそのままにしてしまうと、教室に入ろうとして最初にそれが目に付いたら、どう感じるのでしょうか。せっかく一生懸命に掃除をしたことが、印象としてはゼロになってしまうかもしれません。

始業式の式辞で、「ゴールラインを超えるまで走り切りましょう。」「漢字の練習や日記は、一つ一つ丁寧にするようにしましょう。」と話しましたね。同じことだと思います。例えば、テニスの素振りでも、このように（実演）一振り一振りボールを想像し意識して行うのと、このように何も考えずに回数だけを重ねると、体力的にはほとんど差がなくても、結果は大きく違ってくると思います。「いいかげん」を積み上げても、残るものは少なく、場合によってはゼロやマイナスになることだってあります。100を積み上げていけば、4500年たっても立派な姿が残っています。そういう積み上げをしていきましょう。95%頑張れているので、残り5%を大事にしてほしいというお話をしました。